

「2019年度第3四半期決算」テレフォンカンファレンス

主な質疑応答

1. 資源・エネルギー・環境事業の通期の営業利益見通しを70億円下方修正したうち、売上高の増減の▲40億円、工事採算の変動の▲30億円の内容は？北米で進行中のプロセスプラント案件の現状は？
 - ・ 売上高増減の▲40億円のうち、半分は、複数の受注工事が期ズレしたことに伴い、営業利益が来年度に繰り越された。残り半分が、構造改革により経営環境の変化に基づいてリソースをシフトし、アフターサービス中心に利益を計画していたものの、実現が遅れたため。
 - ・ 工事採算の変動の▲30億円については、第1四半期決算の際にボイラ等の悪化が発生していて、それを埋めるために、例えば、請負金の増額を中心に利益改善を行なうという話をした。概ね半分の額は手の内に入ったが、残りは今期中の実現が難しくなったと判断し、その分を織り込んだ。
 - ・ 北米で進行中のプロセスプラント案件については、工事そのものは順調に進んでおり、工事に伴う何か大きな原価の変動が今後生じることは恐らくない。残るのは契約交渉であり、現在お客様と協議中で、決着がつくまでもう少し時間がかかると見込んでいる。

2. ターボチャージャーは、第3四半期時点で中国の売上は回復しているイメージだが、その状況を、下期に計画していた固定費削減の状況を含め、教えてほしい。また、産業システム・汎用機械事業の通期の営業利益見通しを10億円下方修正したのはターボチャージャーの影響か？
 - ・ ターボチャージャーは、足元は概ね計画ラインに戻ってきている。特に中国では、台数的には前年同期より若干上回っている。とはいえ、累計では、見込んでいた計画ラインに届いていない状況であり、通期まで影響を及ぼしそうである。第2四半期で業績予想を修正したが、その状況から大きな変化はない。固定費削減効果は出てきている。進捗は順調に来ているが、残り3ヵ月改善努力を続ける。
 - ・ 通期の営業利益見通しを10億円下方修正した内容は、ターボチャージャー以外の複数のSBUの減益を見込んだもの。

3. 航空・宇宙・防衛事業に関し、第3四半期の営業利益は想定に対してどうだったのか？通期の営業利益見通しで、売上高の増減の▲20億円の内容は？
 - ・ 航空・宇宙・防衛事業は、第3四半期までの実績は想定よりも下振れしている。これは、主として、スペアパーツの売上の伸びが12月に想定していたラインに対して低かったことが要因である。しかし、現時点では、1月で大部分リカバリーできそうな見通しである。
 - ・ 通期の営業利益見通しで、売上高の増減の▲20億円の内容は、1つは、瑞穂工場の追加の操業差損が一部入っている。さらに、スペアパーツの一部でリカバリーが難しいものがあり、その影響を織り込んだ。ただ、この▲20億円については、為替のメリットの実績部分の+20億円を反映させ、航空・宇宙・防衛事業の通期の営業利益見通しは変えていない。

4. 期初に織り込んでいたリスクバッファの 60 億円は使い切ったのか？

- ・ 第 2 四半期に 40 億円取り崩し，第 3 四半期で残りの 20 億円を取り崩したので，リスクバッファは使い切った。

5. ジャパン マリンユナイテッド (JMU) について，持分法投資損益で第 3 四半期時点または今年度通期でどのくらいのインパクトを想定しているか？

- ・ JMU については，同社の第 3 四半期までの実績を持分法投資損失として今回の決算に反映した。JMU は通期で 360 億円の損失を見込んでおり，今回当社の通期の業績予想にも持分見合いで織り込んでいる。

6. 新型コロナウイルスの事業への影響をどう見ているか？

- ・ ターボチャージャーと航空エンジンについては，新型コロナウイルスの影響のリスクはあると認識しており，今後注視していく。

以上